

## 天庫星

人間の人生行程は「死」によって終わるのではなくて、帰るべくして帰る「土」という故郷があるのです。人間は、この「土(墓)」の中で永遠の眠りにつき、靈魂と肉体の接点であった世界に、ここで別れを告げるのです。

古来から「人間の肉体は東に生まれ、西方浄土へ旅し、靈魂は南に生まれて北へと帰る」という教えがありますが、それぞれが無の世界へ向かって進み始める出発点の世界、それが天庫星の世界なのです。

天庫星の世界は、北と西の二つの道を所有していながら、現実の世界よりも、精神の世界をひた走るのです。それでいて、一つの道だけを選ぶ事が役割なのです。

さらに、一定の方向を定めると無の空間を走るせかいだけにとどまるところがありません。

それこそ一直線に進むのです。その正直さと一本気は、さわやかなまでに頑固なのです。

それが、ときには子供の様な純粹さとなり、表裏側面、常に一体となって、ひとすじの光の如く突き進んでゆくのです。

天庫星の世界は、とにかく古いものが好きですから、思考法も相当に古典的です。ときには探究心の強さから「歴史の星」とも言われています。

またこの星は「長子」か「末子」に生まれるのが常であり、「先祖を祀り」「先祖の墓を守る」という役目を宿命にもつ星世界なのです。

### 天庫星中殺

もともと天庫星は、長男の役割とか、墓守りをする……という星ですが、この星が中殺に遭うと、そこに異常現象が生じて「生家に縁なし」とか「先祖の墓あばき」となるのです。

つまり、先祖の恩徳とか、先祖の恩恵または先祖の名誉……というものを傷つけるという意味合いになるのです。(たとえば、明治の元勳であるところのお孫さんなどが、昭和の代になって刑事事件を起したりした……のような、大変に先祖の恩徳・名誉を傷つけるようなことが起きたということです)

この意味合いは、総てがそうなるという意味ではありませんが、その要素を持っているのです。人によっては、死をも恐れぬ大胆不敵な人生を歩むよようになりたりもするのです。

それだけに、このような生き方をするため他人との摩擦がおこりやすくなります。

また、この星の中殺者には親不孝ものが多いのも特色です。一種開き直った虚無的な一面が、親の存在まで否定してしまうわけですが、だからといって金銭を無心したり、親に暴力を振るうわけではありません。この星の中殺者の生き方が親さへも不必要な、一匹狼的な人生になっていくからです。(逆に親の立場からすると、心配この上もない子供……ということになるはずです。)

この様な傾向は晩年期までも続きますので、「老いてもなお大胆不敵」な行動をとるようになりますので、まわりの若者たちにしてみれば「たじたじ」「はらはら」ものです。

しかもこの傾向は晩年になるほど冒険心が強く出て来ますので身内の人は大変です。

なお天庫中殺の人の子供は病弱な体質になるので、この星の中殺者は生涯その看病に明け暮れる生活になります。しかし、この現象が出るのは長男にだけで、長女や次男、そのほかの子供たちには現われません。